

第2問 次の文章を読み、以下の問1と問2に答えなさい。

私たちの価値基準が転換し、人間とウンコの関係が変化する中で、ウンコの評価も位置づけも揺れ動いてきたことができるだろう。そして、この変化の過程で次第に「汚物」としての位置づけが確立され、①ウンコに対するスティグマ（汚名）は強化され、私たちの認識の中で、それは拭い去れないものとして固着してきたのだとわかった。

今日の日本で、ウンコがかつてのように農地に還ることは困難になった。しかし、それはウンコが汚いからなのではなく、むしろ、私たちの食べものや下水道に流すものが変化した結果であった。だから、物質的な豊かさ、時間を節約する便利さ、衛生的な暮らしを求め続ける私たち自身にもその責任があるということを、あらためて考えてみる必要は、やはりあるのだと思う。

ところで、社会の変化の中で「汚い」と名づけられてきたモノやコトはウンコに限らない。

ウンコとも深く関わってきた「土」もその一つである。本書でも引用した水木しげるが、「土人」という言葉をあえて使うのは侮蔑ではなく、土と生きる人びとへの敬意を示したいから、と明示しているが、それは裏を返せば一般的には「土」にはある種の侮蔑の意味が込められる場合があるということになる。第四章で大正期の農村青年の詩に登場していた「土百姓」という言葉もまた、「土」に自嘲的な意味を込めた表現と解釈できる。こうした「土」に生きる青年の葛藤は、「土」に対する都市の軽蔑的なまなざしを抜きにしては決して説明することはできない。

一九九〇年代後半、大学生だった私はアルバイト先の小さな塾で、同じくアルバイトをしていた都内の女子大生に「あなたって、土臭いわね。あら、本当に靴に土がついているのね。いったいどこから来たの？」と言われたことがある。嘘のような本当の話である。一瞬唖然としたが、実際その日、フィールドワークの帰りで、確かにスニーカーには土がついていたので、私は「本当だね」と答えるほかなかった。あか抜けない雰囲気の人に向かって、彼女はそのことも婉曲的に表現したのだろう。しかしこの時、私は馬鹿にされていると憤慨するよりも、なるほどこうやって「土」を侮蔑のレトリックに使うのか、それはいったいどういう社会の中で培われてきた精神なのだろうかと、その場でしばし考えこんでしまった。相手にとってはとんでもない肩すかしだったに違いない。

じつはこの話には後日談がある。この女子大生は偶然にも私の幼馴染と同じ大学で同じテニスサークルに所属していた。幼馴染が言うには「彼女だって地方から東京に出てきた人だし、土とは無縁ではないはずだけどな」というのである。ますます感慨深かった。彼女は土と決別して東京の大学生となり、アスファルトの上をパンプスで歩き始めたところだったのである。一方私はスニーカーに土をつけながら、各地の農山漁村を歩き回る大学生だった。彼女にとっては「臭い」といって嘲笑したその土が、もしかしたら決別したかった「故郷」でもあり、「地方」でもあり、そこに暮らした自分自身に重なって見えたのかもしれない。都市からのまなざしに起因する葛藤ではなく、農村や地方の②内部から生まれるまなざしによって、「土」が臭いモノ、汚いモノとして遠ざけられていく時代の足音が聞こえてくるような気がした。

「地方」という話から連想されるのは、地域ごとの文化、たとえば「方言」も「汚い」と名づけられてきたモノの一つであるということである。「標準語」という概念が定着し、それと比べて「汚い言葉」と認識され、方言を隠すようになったのは、高度経済成長期頃からだろうか。本来、言葉とは、地域ごとの豊かな文化を反映しているものである。（中略）

それから「手」についても考えてみたい。もともと手工芸や手工業の歴史を研究してきた私としては、「手」ほど、巧みで貴重な道具はない、と思う場面に何度も出会ってきた。自然が生み出す不揃いな素材は、人間の「手」を介することで、揃えられ、整えられ、組み合わされ、織られ、編まれ、研がれ、鍛えられ、練られ、形づくられ、布、籠、器、紐、縄などに姿を変える。機械生産では用いることができない素材も、手ならば扱うことができる場合も多い。料理もまたしかりである。機械で加工するには不向きな形が不揃いの食材も、手を介してならば、いかようにも料理することができる。温度、柔らかさ、手触りなど、手の感触をたよりに判断することも少なくない。しかし今日、「素手」で作ることは、場合によっては衛生的ではないという評価がなされるようになった。

また、産業革命期以降、機械化が進むほどに、手で作るものは「遅れている」、「非合理的で」、「衛生的ではない」モノという評価が与えられてきた。その揺り戻しとして「手工芸」の再評価が進むことがあっても、大きな情勢としては、手は徐々にその価値を失ってきたように思われる。

（湯澤規子『ウンコはどこから来て、どこへ行くのか—人糞地理学ことはじめ』筑摩書房、2020年より作成）

問1 下線部①について、筆者はなぜそのような「スティグマ（汚名）」が定着したと考えるのか、150字以上200字以内で述べなさい。

問2 下線部②にある、「内部から生まれるまなざし」によって、何かが否定的にとらえられていく例を、本文以外の具体例を挙げ、400字以内で述べなさい。